

令和7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等

1. 課題の類型

学校と地域の課題

2. 課題の類型

青少年の健全育成

3. 背景・現状・課題の詳細

本村は、豊かな自然環境に恵まれた中山間地域の小規模自治体であり、少人数教育の利点を活かしたきめ細やかな指導を行っている。一方で、地理的制約から児童生徒が日常的に触れられる社会資源が限られているという側面がある。

これまで本村の教育活動において、地域の自然を生かした体験活動は活発に行われてきたが、企業や大学との具体的な接点は少なく、児童生徒が将来の進路や多様な生き方を考えるための機会不足が喫緊の課題となっていた。

3. 課題解決のために令和7年度に実施した具体的な取組

村内のドローン物流企業と協力し、トイドローン操作体験会を実施した。企業の職員によるドローンの仕組みの説明や安全管理のレクチャーを経て、体育館の特設コースでの操縦体験を行った。プロ操縦士によるデモンストレーションは、児童にドローンの魅力を肌で感じさせる機会となった。

また、県内大学の学生ボランティアを定期的に受け入れ、日常的な学習支援や遊びを通じた世代間交流の場を創出した。年末には大学生の企画による「大学案内ツアー」を実施し、施設見学、学食体験、部活動見学等を通じて、村内にはない「高等教育の場」を具体的にイメージできる機会を提供した。

4. 令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取り組み

令和6年度までは自然体験が主軸であり、外部機関との具体的な連携は限定的であった。その現状を踏まえ、令和7年度は、村内企業の専門性の活用と、大学生による定期的な交流という、より具体的で継続性の高い外部連携を行った。

5. 本事業で達成する目標（アウトカム）

児童生徒が先端技術や大学への興味・関心を高め、将来の進路選択における視野を広げる。

7. 目標達成度を測る指標

企業や大学と連携した交流事業の回数

8. 現状の数値

0件

9. 本年度の目標値

1件

10. 本年度の実績値

2件

11. アウトカムの達成度に関する評価・分析

本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた

ドローン体験では、技術への関心のみならず、村内の産業に対する関心や誇りなどが醸成されたと考える。大学訪問では「この大学に進学したい」という具体的な目標を口にする児童が現れるなど、進路意識の変容に直結する極めて高い成果が得られた。

その一方で、学生ボランティアの旅費負担や受入体制の整備など、持続可能な連携体制の予算化・仕組み化を検討する必要がある。